明治四十二年十二月十一日第三種郵便物認可
明治二十一年二月二十八日內務省許可（每月一回廿五日發行）

大正三年二月二十五日發行

婦人衛生雜誌

第二百九十一號

婦人衞生雜誌

第二百九十一號目次

稟告

來る三月例會は、過般役員會の決議に依り臨時休會致すことゝ相成候間左樣御了承被下度候也

大正三年二月

私立大日本婦人衞生會

前髪心の覇王 美人印ヘーヤロール

弊店製造の特許ヘーヤロールは原料を遠く濠洲に仰ぎ新歸朝者美容術界の明星たる岡崎エン子女史が母國への土産として持ち來りしものに大改良を加へ衛生と經濟とを兼備したる逸品なる事貴婦人界既に定評あり

ヘーヤロール前髪心壹個の目方

壹尺中	弐匁四分
壹尺弐寸大	三匁四分
壹尺五寸極大	五匁五分



講演

現代式時間割

當今の如く忙しい世の中では、仕事の時間割の上手下手、その定め方の適當と不適當とでは、衛生竝に生活全般の上に大變な差を來す、同じ時間でも、その割當て方に出て大變損得がある、これは十分考へる價値のある問題であらうと思ふ。ベルリンの或工場監督で、クラムプスと云ふ人が、自分の立場からこの問題について意見を述べて居るが、參考となることゝ思ふから、その大體を紹介して、講演に代へやうと思ふ。

仕事時間を定めるのには、先づその業務竝に執務上の關係、それから場所、殊に交通の具合を考合はせなければならぬ。

現時歐洲の都會では、一流の商館は勿論、餘り大きくない商店などでも、雇人の仕事時間は八時間と定まつてゐる、秩序の整然としてゐる所では、これ以上の執務時間は全く無用であるとされて居る。せい〳〵八時間以上働いた後には、仕事の出來ばえは著しく惡くなる、仕事の分量も、その精確の度も總く程劣つて來る、これにも關はず仕事を續ける分には遂に健康を害することになる。但しこれは非常に規律あり、秩序ある所で、力を一杯に出す場合のことであつて、だらしなく愚圖々々に働く所では左樣な心配はない譯である。然るに組織の不完全な所でも矢張相應に勞働力を費さなければならぬ場合が少なくない、規律の嚴重な所よりも甚しいことが往々ある、これはつまり必要だけの仕事をするのに最良最簡單の方法を取らないから、非常に無駄骨折をす

るのである。都合好く、餘り無駄骨折をせずに、快くその盡すだけの勢力を盡すと云ふことは、これは義務であり、又權利である、何故ならば有力なる役人と云ふものは、力を浪費せねばならぬ仕事には矢張力を浪費するもので、その全體の成績は監督者の責任であるからである。

賢明な管理者は、終日十分に勤めた者を又晩にも働かさうとはしない、雇人や同僚の健康を害し、又雇人と監督の間を面白くなくするやうなことはしない、然るに一般にかう云ふ傾向があつて、これは社會的並に政治上の立場から憂慮すべきことなるのみならず、實にまた防遏されねばならぬことゝ思ふ。

八時間の勤務時間は短過ぎると云ふことを往々言はれるが、これは不當なことで、實際組織の善く出來て居る所で働く者には、何うしても八時間が原則でなければならぬ。こゝに注意すべきことは、經驗上朝及び午前の時間は最も仕事の量が多く且つ非常に精確に出來ることである。女子速記者と「タイプライター」をやる者に就て行つた試驗と觀察とに據て見ると、誤の數は、午後からは一時間毎に多くなることが明かに分かる、簿記係の役人に就て行はれた試驗も、矢張同樣の成績を示して居る、尤も簿記係の良心ある役人は間違てはならぬと云ふ考が頭から浸込むで居るので、概して能く誤を避けるが、併しその仕事の分量は矢張刻々少なくなる、午後には往往午前の仕事の四十「プロセント」（一時間の割合にして）即ち百の仕事とすると、その四十位しか出來なくなる。尚ほ斯う云ふ風に成績が惡くなつて來た時に、努めて澤山の仕事を立派にやらうとすると、普通なれば雜作もないことでも非常に勞力を要することは看過すことの出來ぬ事實である。

こゝには又頭腦の仕事と腕の仕事との間の別はあるが、腕の仕事では、時間が餘計になれば、その出來ばへが非常に減じて來ることは勿論のことで、これ

は手間賃仕事に於ても同じことである、而して仕事時間を短くしたからと云ふて、一日の成績には餘り變りのないものである。

それで八時間の勤務時間を適當とするとしても、全體の利害關係を考へると、それだけでは話が足りない、尚ほ普通の雇人は二十四時間の殘りの時間を何う云ふやうに應用し利用するかと云ふことも考へて見なければならぬ、從來の執務時間は午前の八時から十二時まで、午後は二時から六時までと云ふのが定まりである、晝休は二時間、何うかすると二時間半と云ふ所もあるが、この間で休憩し、晝食を認めると云ふことになつて居る。これはも少し精しく觀察して見る必要がある。

地方でも、又大都會にある工場でも、その仕事場から離れた、遠方に住むでゐる人間を雇入れなければならぬと云ふ狀態になつてゐる、中には隨分市外電車又は鐵道を利用し或は自轉車で通勤するものもある、勤場所から少し離れた所に住むでゐることになると、僅かに十分間で通へる所でも、往復と出たり這入りの時間で、もう半時間は潰れる　併し二時間の休時間の中半時間潰れても、まだ食事の後に必要な半時間の休憩時間が殘るから宜しいが、多數の役人はもつと遠い所から通ふてゐる、往々四十五分以上もかゝる所から通ふ、さうなると、その往復時間を休憩時間から差引けば、やうやく三十分殘るか殘らぬことになり、急いで食事を濟しても殆ど休憩する暇はない。斯樣に絕えず身體と神經を虐待しては各個人の作業能力を損するのみならず、國民全般の健康を害するに至ることは今更說明するまでもないことである。

この關係は大都會では特に宜しくない、獨逸でもブレスラウ、ステツチン、ハンブルヒ、ドレスデン、ライプチヒ、ドルトムンド、エツセン、チツセルドルフ及びケルンと云ふやうな工業都市になると、常雇の者も日雇の者も半時間の道を通ふのは普通である、十五年以來ベルリン市中の交通機關は不足にな

つて來たので、これ以上の道を通ふのは別に珍しくない。

今日の都市建築法では、從來の大きな貸借宿舍の代りに、後に小さな庭があつて、前には並木路があり、其間に森や草原のある小家屋を建てることに努めて居るが、この幅を取る建方は非常に場所を潰し道を通るに時間を潰すやうになる。それから又草原や野原を通つて、既に保養をして來る市外に住むでゐる役人と、地下の空氣の惡い「トンチル」の中や市街の「ベンチン」蒸氣の中を通つて來るものとの間には違がある。益々吾々の時間は貴くなるが、一時間半も往復に費し、僅かに十五分間以内に食事を濟して、胃を膨らして直ぐ又事務を執ると云ふことは無法なことゝ云はなければならぬ。此等の事の他に尚ほ非常に不經濟なことがある、これは昔からの習慣で、一種の病氣と云ふても可い位のもので、監督者に取つては定まつた損失である、職業が大きければそれだけ損失が大きい。

それは晝食の爲に家に歸るものが、乘車時間に遲れまいとか何とか云ふので、仕事を節約する傾が非常に多い、而して手を洗ふとか、周圍を片づけるとか云ふことで以て、仕舞ふのに十五分は掛かる、それから再び仕事に取掛つて、それが善く行くまでには又十五分以上は掛る。その上遲刻をするものが出來る、これは必ずしも怠けると云ふ譯ではないが、一般にその事柄が不都合である、交通機關の惡いことが勞働時間を縮める。

次に一日の殘りに就て考へて見ると、役人は七時半頃に家に歸る、往々もつと遲く歸る、勿論疲勞れて腹が空いて歸つて來る、それから著物を著更へるとか何とかする間に、何うしても三十分は經つ、食事をするともう九時である、それから家族の爲に世話をすると云ふ譯である。

今日の如く教育の必要を感ぜられて居る時代に、兩親がその小兒を教養したいと云ふ考は十分にあるが、この狀態では如何とも仕方がない、而かも此點

について誰も心配してくれる人はない、水泳が善いとか、體操をせよとか、規則正しく運動せよとか種種の說敎は聞かされるが、單に利益があるからと云ふて、此等の人々に何處にそんな時間があるであらう。

勤務時間が八時から十二時、二時から六時迄とすると午前の七時から午後の七時迄はお父さんが家に居らぬとになる、而して此の十二時間の中八時間、即ち丁度六十六「プロセント」だけは仕事に用ひられるが、その餘は全く無益に費されるのである。されば今日の如く神經質に忙がしい世中の狀態に於ては、國民健康の爲に最も大切な時間を無駄にするものと云はなければならぬ、何故ならば此の仕事の爲に利用されぬ四時間は、少しも身心の休養にはならぬ、同じく往復の時間を急ぐとか、交通機關の雜閙とか、時間の切迫とか云ふやうなことで絶えず興奮と不平とに滿される。交通上の災害は、遲れまいと云ふので急ぐが爲に起ることは非常に多い。若し晝休と云ふことを無くして、四時退けにすることが出來たならば、此等の不都合の半分は減るだらうと思はれる。

正午に役所とか事務所とかゝら歸らなければならぬとすると、天候の影響だけでも隨分厄介なものである、燒くが如き夏の暑さに身體は疲れて、ぐたりとする、往々不意に夕立に逢ふて、びしよ濡になる、雪の日も同樣で、著物でも靴でも濡れたり汚れたりする、それで以て午後を過さなければならぬ、斯樣な事柄は凡て仕事をする樂を殺ぎ、勞働力を減ずる而して屢々斯樣な事に遭遇すれば、知らず識らずの間に身體並に精神の抵抗力を減損することになる。」そこで仕事を始める時間を七時にすれば、身心爽快にして甲斐々々しく働ける午前の時間が長くなる、而して三時に仕事を仕舞ふやうにする。これは種々の點から見て都合が好いことゝ思はれる、第一に家族の者の爲に非常に都合が好い、而して主な食事を四時頃にすれば、餘り遲くならず、沐浴をしたり、

子供を連れて散歩をするとか、或は學校の課業に就て尋ねて見るとか、又は庭の手入をするとか、家族の者の爲に世話をするとか、有益な講演會に出席するとか、高尙な藝術を味ふとかする餘裕の時間が剩る。

勿論八時間の仕事時間と云ふても、八時間ぶつ通しに働き通す譯ではない、これは分かりきつた話であるが、又これには是非溫い朝食でなければならぬ。これは長年間の經驗上、又獨逸の多數の職業が敎へる通り、御上で少しく此事の便宜を計つてくれば二十「ペンニヒ」から三十五「ペンニヒ」（一「ペンニヒ」は我邦の二厘五毛程に當る）で、味も好く、非常に豐富で淸潔で且つ滋養に富むだ朝食をしたゝめることが出來る。

本題に就ては既に書き過ぎたが、凡そ非常に有益な事を採用するときには、又それ相應の反對說はあるものである。一旦採用した後に再びその方法を廢するのは、これは第一に意氣地がないからのことで、眞の利益を識らない、それで、冗談半分に試みるからのことである、英國の勞働時間問題の如きも、始めて罷めたと云ふだけで、其外何も、聞く所がない此の午前午後と分けない執務時間の方法を採用すると、家政上に不都合を來すと云ふ向もあるが、これは頗る杞憂に屬する、何故なれば既に今日の所では父の晝食時間と學校生徒及び商賈に從事してゐる兒弟等の晝食時間が一緒になると云ふことは決してない、或は甚だ稀である、且つ官衙學校、商館、及び工場等で一般に午前午後をぶつ通すやうになれば、大に簡單に一致するやうになる。又往々道が遠い爲に、父親は小料理屋で晝食をすると云ふことになる、さうすると母親は、その出費を埋合はす爲に晝食を切詰める、これが常例となれば母親と子供等の爲に仇をすることになる。

斯様に從來の習慣を改めるとすれば、勿論一時多少の不便を覺ゆるに違ない、小都會又稍や大きな都會でも若い者が四時に晝食をすることは困難と思はれ

るかも知れない、併し忽ちこれが常規となる、而して身體並に精神、家庭及び社會が此の改革に由て受くる所の無數の利益は、これよりも遙かに大なるものがある。これに由て先づ經濟上の利益が浮むで來ることは、次の二三の例に依ても分かる、即ち暖室の時間は二時間は儉約が出來る、又暮方の點燈は全く儉約が出來て、その代りに冬でも晝の明い時間を自分用に利用することが出來る。この時間と云ふものは晝休の間に無益に過される所の時間である。時と云ふものは、倫理、道德、衞生、經濟並にその相互關係に於て、全體の國民文化を開發することを要求し且つこれに最も適當した有ゆる方法を以て、その破壞的作用に對抗せんことを要求するものである。時代の淸新を齎す所の最善事を普及せんが爲めには、凡て有害な事は、全力を舉げてこれと鬪はなければならね。日々吾人に捧げられる所の科學的硏究の美果も、若し吾人がこれを味ひ、これを應用するだけの能力を養成せんとせず、又養成し得ぬならば、そは只喧しき鐘の聲たるのみである。

以上はクラムプス氏の意見の大體であるが、その要點は、勞働時間は八時間で澤山である、それ以上にしても、その割合に效がないのみならず、種種の害がある。それから普通歐羅巴では、執務時間は午前の八時から十二時迄、午後は二時から六時迄と云ふのが通則になつて居るが、これでは勤める人にも、その家族の爲にも萬事不都合であるから、午前七時に始め、二時間の晝休を廢して、三時に切上げることにすれば、凡ての點に於て非常に利益である、かう云ふ風に一般の執務時間を改め度いと云ふのである。西洋と日本とでは日の具合が多少相異があるけれども、大體の點に於て同じである、このクラムプス氏の議論は矢張我邦普通の執務時間に就て參考とすることが出來る、多少都合が惡い點もあるが、確かに利益と思はるる所も多い、これは實際小さいやうでゐて、關係する所の甚だ廣い問題で、一家の家政、衞生種々

の事柄に影響のあることであるから、我邦の婦人方にも紹介して、それぐ＼御意見を承はり度いと思ふのである。

叢談

著物の衛生

醫學士　中村芳助

一、著物の起源

著物を著始めたのは何う云ふ譯かと云ふと、一寸考へれば、寒さ防ぎの爲であらうと思はれるが、決してそればかりではない、熱い國のものでも不完全ながら矢張一種の著物を著てゐるものがある、これは身體の裝飾の爲である、アメリカのインデイヤンが身體を赤く塗つたり、南洋の土人が黄色に塗つたり、アフリカ土人が黒く塗つたりするそうである、又種々の入墨をする風俗もある、つまりこれと同じやうな心持で、所謂身體の裝飾の爲に著物を著たとも云へる。それから尚ほ裝飾と云ふ所謂洒落氣よりも、も少し地味な考で、即ち裸が何やら恥しいと云ふ所から、著物を著て身體を包む、少くともその一部だけを隱すと云ふことが著物の起りとも思はれる、或は野山を駈廻る時に木や棘で引掻かれるのを防ぐ爲に著るやうになつたかと思はれる點もある。要するに、著物の起源は一様ではない、以上の種々の動機から起つたものと思はなければならぬ。

二　著物の種類

著物の質は、大きく分ければ動物質のものと植物質のものである、獸の皮とか羅紗とか云ふものは總て動物から出たものである、絹もさうである、それから紙のやうなもの、木綿の類は植物から出たもので、これを又種々取まぜて織物が出來る。

次に著物の形が種々ある、これは色々の事情に依て

その形が變る、軍服はきちんと緊まつた形のものになり、禮服は長く體裁が好いと云ふ風に、生活の方法や社會上その周圍に對する關係から著物の形が様になる、又氣候の關係もある、大體から云ふと、溫い國では寛く薄い著物、寒い國では緊まつた厚い著物と云ふ風である。印度あたりでは女でも只袈裟のやうな長い布を一方の肩から腰に巻いて居る、又臺灣の生蕃のやうに只風呂敷のやうなものを頸から腰の邊まで掛けて居るのもあり、中には素裸にチャン／＼のやうなものを著て居るのもあり、エスキモーの如く獸の皮を著て居るのもある、この著物の形、その發達も矢張複雜な事情の影響を受けて變はる。

三、著物の效用

著物の起りは、先に云ふたやうな譯で出來て來たもので、著物は何の爲に著るかと云ふことは一概には云へない、併し先づ第一の用は矢張寒さを防ぐ爲である、故に熱い國では、その必要がない、アフリカ邊の土人は實際裸である、全く素裸の處もある、日本でも夏は裸で居れる、只蚊に刺されたり、風儀上宜しくないとか、恥しいと云ふ點から單衣を著るが裸で居ることが出來る。アフリカに暫く居た軍人に聞たことがあつたが、その裸生活の人々の間に居ると、矢張自分一人著物を著て居るのは、何だか却て恥しいやうな氣がして來る、きまりが惡くなるそうである、兎に角暖い處、或は暖い季節には無くても濟むものである。併し氣溫が二十五度以下になると、身體の溫が外の空氣に奪はれて、寒くなるから何うしても著物の必要が起つて來る、尤も澤山食物を取つて運動すれば、餘程の寒さにも堪へられる、併しこれは不經濟でもあり、不都合であるから著物で體溫の奪はれるのを防いで、食物を儉約した方が利益である。それから著物を著て居れば、皮膚に外傷を受けることを免れる、これが直接に身體の爲になることで、禮儀とか體裁とかの爲に著物を著るのは、これは文明人のことで、大部分精神の方か

ら關係して居る、贅澤に美しい著物を著ると云ふのは、申迄もなく身體の爲ではない。

四、著物の衛生

學問の方から著物、衣服の衛生と云ふと、先づ體温の調節と云ふ生理作用から、衣服の材料を調べて、一々その保温の作用、通氣の具合、又濕氣に對する關係から、染物の性質等に至るまで隨分六ケしい研究が要る、併しそれ等の事を細かく知つた所で、通常の衛生には仕方がない、一々顯微鏡で織物の絲を檢査したり、藥で染物を調べたりする必要はない、それは學問上のことで、普通は、著物の衛生は、一口にいへば寒くないだけの著物を著る、而して垢の著かないやうに屢々洗濯する、それだけで澤山である、全體から云ふと、身體の爲には裸が一番宜い、裸になつて居るのが一番衛生的である、只寒ければ前に云ふた通り、餘計に物を食べて、盛に運動でもしなければ、體温を保つて行けぬと云ふ不都合があるから、さう云ふことをせぬでも濟むやうに著物で以て體温を調節するのである、著物を以て身體を包めば、外の冷たい空氣に體温を奪い去られるのを防ぎ、著物と皮膚との間に程好き温度を作る、これが本統の著物の效用である、重著をすれば又その作用が一層有力になる、尙ほ温の傳導と云ふて、著物が身體の温を自身に取る作用がある、これは織物の種類に依て多少の差がある、併しその織物の質、原料には餘り關係がない、絹でも木綿でも毛でも大した異はない、只織方に依て違ふ、總て織目の中に空氣を澤山含むものが温を導くことが少ない、從つて著物にして暖かい、「フランネル」とか羅紗とか云ふものゝ比較的暖いのはこの爲である。それから濕氣に對しては、毛絲とか「フランネル」のやうなものは濕氣を取る性質が強い、それで濕氣があつても冷たいやうに感じない、併しこれを織物にすると却て水分を吸收することが少い、木綿、麻、絹と云ふやうな順序に水分を吸收する力が強い、著物が濡れるときには、その織目の間に水が入るのであるから、水

を吸ふ力の強いもの程空氣の通が惡くなる、而してその水分が蒸發するときには體溫が盛に奪はれるから寒さを感ずる、これは前の理由に據つて、毛織物が一番水を吸はず、従て空氣の通も良く、體溫も奪はれることが少ない、或は遲い、それから木綿、麻、絹と云ふ順序である。但しこれは、その季節、又は著物の種類に依て、それ〴〵異ふから、一概に毛織物が身體の爲に良いと云ふ譯ではない、只その性質は斯う云ふ理窟のものであると云ふだけのことで、その理窟から割出して各々適當な場合、適當な衣類に應用すれば宜いのである、卽ち夏は麻の著物が涼しくて可い、冬は毛織が煖くて可いと云ふ譯である。

五、洗濯

著物の衛生で一番大事なことは洗濯である、一枚の著物を何時までも著て居ると、内からは身體の垢が著き汗が浸み、それが分解して臭くなる、又適度の濕氣と溫度との爲に黴菌が能く育つ、外からは塵埃が著く、種々樣々の塵埃が著く、その中には黴菌も居れば、隨分不潔な物の粉になつたものもある、或は虱のやうな動物が著いて、繁殖することもある、斯樣なものを著て居つては、却て衛生上害になることは勿論である、併しそれ程に、目につく程にならぬでも著て居れば毎日不潔になるのであるから肌著のやうなものは夏ならば毎日、冬でも一週間に一度位づゝは洗濯をしなければならぬ、毛織物は毎日外から歸つた時に「ブラッシ」で塵埃を拂つて掛けて置く、總て清潔と云ふ考があれば、自然著物の衛生が出來る、清潔と外觀の綺麗な、卽ち赤い衣服とは意味が違ふ、つまり垢などが著いてゐないのが清潔で、模樣や柄などには關係のないことである。幾ら美しい著物を著飾つても、垢のついた肌著を身につけてゐては不潔である。

それで一體から云へば、人間は裸で居れば本統である、裸と云ふと、今日では甚だ殺風景で、無作法の極點のやうに考へられるが、皮膚は自然の著物であ

る、今日でも室内では時々裸になるのは、身體の爲に宜いことである、併し地理上の關係から、日本では冬は是非著物が必要である、又風俗上裸體を許さない、今日の衣服と云ふものゝ意味からは種々の要求もあるが、衞生上の要求は極めて簡單である、即ち寒からず熱からずと云ふこと、清潔と云ふことだけである。その寒からず熱からずと云ふことも、普通の人には特別に注意する必要はない、誰でも寒いか熱いかは自分で分かる、寒ければ寒くないだけ著物を著れば可し、熱ければ熱くないだけ著物を脱げば可いのであるが、暑いときに急に裸になつて、汗の出て居る所を風にあたると感冒などを引くことがある、冬でも著物を脱更へる時に多少注意を要する、これも健康の人には云ふ程のこともないが、病人とか小兒には特別の注意を要する、小兒は全く親次第であるから、親が自分で寒いと思ふと、丸で綿で包で、毛布で卷いて麴を造るやうなことをする、さうかと思ふと小さな學校の子供に跣足で靴を穿かせ、手や耳に凍傷をこしらへさして、強い〳〵とおだてゝ悦んでゐる親もある、何方も極端であるが、世間には何方かと云へば、甘い親の方が多い、特に金の澤山ある家ではそうである、實際小兒科醫に聞いて見ても、さうである、無闇に子供に著物を著せる方が多い、さう云ふ小兒は薄弱である、丈夫には育てない、皆親が惡いのである、折角の恩が仇になる、斯樣な親は、子供が裸で生れて來たことを忘れ人間の皮膚は立派な自然の著物であることを知らず、實際裸體で生活して居る人間のあることを知らないからである、著物は全く皮膚で體溫を調節しかねる所を補ふに過ぎないのである、小兒を育てるに人形に美しい著物を著せて玩具にするやうな考で育てるならば、それは甚しい誤である。第二の清潔と云ふことは總ての衞生に、最も必要な法則で、衣服の衞生に於ても最も大切なことである、塵埃を拂ふことゝ洗濯をすることである、これには西洋のやうに毎週水曜日なり土曜日なり、洗濯日と云ふものを

定めて、必ずその日には洗濯することにしたが宜からうと思ふ。常に垢の著かない清潔な著物を著る人なれば、著物の著方や其他の事も申分がない筈である、兎に角著物の清潔、洗濯と云ふことは、衣服衛生上最も肝要なことである。

癌とは如何なるものか

醫學士　志田義三

癌、或は癌腫と云へば、近來大抵の人は知てゐる、少くとも名だけは聞てゐる、これは多い病氣であり又性質の悪い病氣であるからである、病氣とは云ふが、實は腫瘍である。

現今醫學の方で最も困つてゐる病氣が三つある、人間の爲に最も厄介な、始末に困る病氣が三つある、即ち黴毒と結核と、この癌腫である。此等の病氣の厄介なものであると云ふ譯は、第一に非常に多い、又遺傳したり、傳染したりする性質があり、又治癒りにくゝ、これが爲に非常に多數の人間が殺されるからである。黴毒は大抵不行跡の結果感染して、それが妻子にまでも禍を及ぼすと云ふ、誠に厭ふべく恐るべき病氣で、而かも世界中に非常に廣く蔓延して居る所の病氣で、衛生上昔からこれを撲滅しやうとして種々のことが企られたが、今日に至るまで撲滅することが出來ず、相變らず難儀をして居る、只幸にその治療法が發達し、近年に至てその原因たる細菌も分かり、治療法もます／＼發達して、大に效を奏するやうになつて來た。次にこれに劣らぬ人間の大敵は結核で、その害毒は實に甚しい、若しこの結核と云ふ病氣の退治が出來たならば、人間は何の位長生するやうになるか分からない、併しこれもその病原が分かり、豫防のし方も分かつて來たから、皆な注意するやうになれば退治の出來ないことはない、現に西洋諸國では段々結核で死ぬるものは少なくなつて來て居る、所が第三番目のこの癌と云ふものは、今も現に醫學者が熱心に研究してゐるが、

その原因に就ても能く分からぬ點があり、療治も思ふやうに行かず、豫防法も十分に行ふことが出來ないので誠に困るのである。それでこゝに此の癌と云ふものは何んなものであるかと云ふ大體のことを話して見やうと思ふのである。

西洋では癌のことを「カルチノーム」と云ふ、これは希臘語の「カルキノス」、即ち蟹と云ふ言葉から來たのであると云ふことで、獨逸でも「クレーブス」、蟹と云ふ、何故斯んな名が出來たかと云ふと、皮膚、殊に乳房などに出來た癌腫を見ると、蟹の甲のやうに赤黑く腫上つた腫瘍から、四方に蟹の脚のやうに硬結が出てゐる、或は血管が太くなつて周圍に現はれてゐる有様は、一寸蟹のやうな形である、これからさう云ふ名がついたのであらうと云ふことである。

癌腫は何んな腫瘍かと云ふと、これはちと六ケしい話になるが、組織學上で云ふ上皮細胞といふものから出來るので、それが際限なく殖えて、周圍に喰ひ込むで段々大きな腫瘍になるのである。これを起す原因は何かと云ふと、矢張一種の細菌であると云ふ人もあり、小さな蟲であると云ふ人もあるが、何れも確かでない、只種々の刺戟があると、そこから出來ると云ふことは事實らしい。例へば舌や唇の癌は煙草を喫むものに多く、食道や胃の癌は酒を飮むものに多く、乳房の癌は小兒に哺乳せしむる女に多いと云ふ事實も、矢張刺戟が關係するものと思はれる、尙ほ癌は遺傳する傾がある。癌に罹つたものゝ系圖を調べて見ると、その父母或は祖父母等の中に癌に罹つたものを見出すことが多い。又癌は小兒にはない、大抵三十歳以上の人に出來るので、五十歳から六十歳までの年齡に一番多い。男にも女にも出來る。

癌の出來る場處は何處か、前に云ふた上皮のある處は何處にでも出來る、皮膚にも出來れば、粘膜にも出來る。其中でも名高いのは、乳癌、胃癌、子宮癌で、子宮癌は勿論女に限る、乳癌は男にも無いではない

か女に多い。

癌は何んな風になつて來るかと云ふと、先づ外から能く見える乳癌に就て云へば、初めは只乳房に硬結が出來て、それが段々大きくなる、而して後には皮膚にも、下の胸の方にも癒着き、上の方が腐さる、それから、腋窩あたりに根が張つてグリ〳〵が出來、それも同じやうになる、その間に、その毒が身體に廻つて段々身體が痩せ、皮膚の色も壁土のやうな一種いやな色になり、漸次衰弱して死ぬるのである。胃癌でも子宮癌でも外からは見えないが、その大きくなる理窟は同一で矢張同じやうに全身が衰へて早晩死ぬのが相場である、つまり治癒らぬものである。然し療治をすれば必ずしも治癒らぬものではない、只遲れては手が著けられないのである、なるべく早く十分に切除つて仕舞へば治癒る、それが後れては、切つたり燒いたりすると却て進んで、死を早める。兎に角出來るだけ早く診斷をつけて、出來るだけ早く切取つて仕舞へば宜いのである、今日では診斷は餘程確實につく、併し癌は性質の惡い割合に、急に大きくなるものでもなければ、疼痛も特別に烈しいものでないから、大抵長い間放置つて置く或はいゝ加減な膏藥などを貼つて癒さうとする、何うしても癒らぬ、醫者の處に來るときは、既に遲れて居ると云ふ場合が甚だ多い、乳癌には限らぬ胃癌でも子宮癌でも同樣である、少し疑はしい時には、面倒だとか、恥しいとか云ふことよりも、生命の方を大事に、一刻も早く確實な診察を受けることが必要である、今日では癌腫の治療には外科的の手術の外に確實な治療法はないが、麻酔法を施すから痛いだらうと云ふ心配は無用である、尙ほ近來は「ラヂウム」、又は「レントゲン」療法も效能があると云はれる、效能のあることは兎に角確らしいが、何の位まで效があるものかは目下研究中である。

社會的移住協會

小寺照二郎

これは獨逸の或衛生雜誌に、エルンスト、ヨエルと云ふ人が書いたものを鈔譯したのであるが、金と時間の消費に對し、或は無論有害の慈善をなして後悔してゐる人々には、又斯様な力の用ひ道もあることを紹介し度いと思ふのである。

前世紀の半頃に、英國に於て一大社會的理想的運動が起つたが、それは所謂「セツトルメント」、卽ち移住法に於て最も著しく顯はれた。移住と云ふても、これは普通の植民とか移住と云ふのとは趣が異つて、敎育あるものが大都會の勞働者及び貧民町の中に移住して、親しく貧民の窮狀を察し、出來るだけ之を救助するのである。その趣意は、始終精神的に又物質的に困窮してゐるものに對して、上の方から或は遠方の方から慈善をするやうな普通のやり方では效能がない、惠金と云ふやうなものは、甚しき怠慢の罪を免れしめることは出來ない、これが贖罪竝に改善には、唯獻身的に喜んで自分自身を與へなければならぬと云ふのである。

東倫敦の「トインビーホール」と云ふのは千八百八十四年に牧師カノン、バルチツトと云ふ人が、ラスキンの弟子で非常に慈悲心に富み、宗敎心の深かつたアルノルド、トインビーの記念の爲に創設したもので、その後四十餘も英國移住會は出來たが、これが先づ嚆矢である。その住民は約二十人で、其處に住むで居らぬ百餘名の補助者に依て支へられてゐる、而してそれは大抵若い大學卒業生で、學業を卒へて職業に就く間、多少の年限、この社會的啓蒙學校に勤めるのである。この「トインビーホール」の事業は――他の「セツトルメンツ」も大抵似寄つた働をしてゐる――何でも公衆及び個人の敎育竝に保護事業に關することを包括して居つて、英國の方法は、大學卒業生と勞働者で出來て居る倶樂部と云ふが最も適當である、卽ち博物學、文學、美術、歷史、遠足及び旅行の倶樂部、それから討議會、補習「クラス」、高等學校講習、衛生竝に救急法の敎授、公開講演及

び討論會、夜話會及び奏演會、繪畫展覧會、法律顧問所と云ふやうな、有ゆることをやるので、移住者各個の仕事としては、學校衛生、中央市政、貧民保護、兒童保護と云ふやうなことに從事するのであるが、甚しき不良の衛生狀態が往々、この移住者に依て發見されて、極力その排除に努められる。

それから又老人保険法の如き大仕掛の社會政策もこの「セットルメンツ」に依て起つた、これも詰り隣人との親密な交際が原になつて出來たことである。

この英國の「セットルメンツ」運動は獨逸でも始まつて來た、千九百一年にハンブルグの神學者でワルテル、クラッセンと云ふ人が、「フォルクスハイム」と云ふものを創立した、尤もこれは貧民窟や勞働者町の間に教育あるものが移住すると云ふのではないが、兎に角非常に豐富な特殊の仕事で以て教育あるものと勞働者との間を結付けて社會開發に努めることゝなつた、獨逸では下級の者も英國に於ける如き慘憺たる狀態を呈するには至らなかつたし、以前から規則となつてる學校教育又補習教育があり、其上直接間接に英國の「セットルメンツ」の影響を受けて幾らもこれに類似の慈善事業なども起つたが、獨逸の慈善事業は段々お役所風、お役人風になつて來て、上流の者と下級の者との折合がうまく行かぬ憾がある。

此の種の社會政策機關をうまく通用するのには、何うしても種々の階級の人々が相會し、互に知合ひ、談合ひ、盛に交際して、御互に得る所あり與ふる所あつて助け合はなければならぬ。國民中の教育ある青年が自ら進むで、趣味を以て勞働者町に入込み、其處で以て學校や圖書館で知ることの出來ぬ所を學ぶ考でなければならぬ。

カノン、バルチット氏は斯う云ふた「諸君が貧民の爲に心配し、勞働者の困苦に同情するならば、何故來つて彼等と共に住まぬか——身分の卑いものゝ間に住むで謙遜する貴顯としてゞはなく、又陥落したものを救ふ所の純潔者としてゞもなく、無教育者を

敎へんとする識者としてゞもなく、又趣味を普及する所の風雅の代表者としてゞもない、只單に隣人として、友人として將た同市民として、來つて彼等と共に住まぬか』と云ふたが、獨逸でも近頃大學卒業生及び大學生の會の附屬事業として、右の趣意の移住事業が始められた、大學卒業生の中でも、同じ志を以て堅固な團體を組織する人間を求めて、勞働者町に住ましめ、普通の協會と云ふやうな風ではなく、全く親しい隣同志と云ふ風に感化を及ばさうとするのである。而して大人の間には晩の講釋會とか、親の會等を設け、極親密な組合或は倶樂部を設け、又は演奏會等を催して、此の目的に資する。小學を卒業した兒童又通學してゐる兒童に對しては、敎育上の感化奬勵を與へ、遊戲、遠足、體操、唱歌、技巧等の敎授もする。斯樣に密接に結付けられた事業に於て、衛生上の原則が又何の位普及さるゝか分からない、隣家の訪問に由て、體力養成に由て、特に移住者が健全なる生活態度の模範を示すことに由て、國民力の催進に貢獻することは多大なものである。移住協會では又出來るならば公衆の法律顧問所、職業紹介所も設置する筈である。尙ほ又この移住會は、貧民保護、酒客保護の如きことも、銘々の仕事としてそれ〲盡力する、これは會の規則ではないが、事業の性質上自然に其所に出て來るのである。

斯樣にして、勞働者或は貧民町に移住して獻身的の働をするものは五人乃至十人であるが、これには其外に居て、不斷に或は時々共働者たる義務を有つてゐる多數の後援者が居るのである。獨逸國の二三の都市に於ては、既に此の事業の準備が整ふた所もあるか、多くはまだ十分の後援者に乏しい。この目的を達するには同志を募らなければならず、協力が必要である、少なくとも此の思想を普及して、この新事業の基礎を固めるに助力してくれる人がなければならぬ。今現に獨逸移住協會の事務所では印刷物を送つて、贊助者を求めて居る、醵金の義務はないと

のことである。

體内道中記

奇怪な題で御座いますが、解剖とか生理とか、凡てこの醫學に關係したお話は、普通の方々には兎角分かりにくい點が多く、從つて餘り面白くないもので御座います、それで消化とか血液の環り方などを御話致しますにしても、誠に御話がしにくい、そこで今日は一つ體内の行脚僧に身をやつして、一方は消化管、卽ち口から致して食道、胃、腸を經て、ずつと身體の出はづれまで旅行して、道々見物しながら、說明を致して參らうと思ふので御座います。それから暇が御座いましたら、心臟から出發致して動脈、毛細管、靜脈を經て、再び心臟に立戻るまでの裏道の道中記を申上げて見たいと存じます。

扨て、この消化管と云ふ長の旅路を辿ります中には普通の食物と云ふやうな姿では、それはひどい目に逢ひますから、迚もかないませぬ。第一に嚙まれる、絞られる、壓つけられる、轉ばされる、種々の藥を浴せかけられて、搗混せられる、舐められる、鎔されると云ふ譯で、迚も生命はありませぬから、身仕度をするならば、豆の皮のやうな、消化液を浴せかけられても溶つこのない鎧に身を堅めて出掛けなければなりませぬが、それにしても絕えず斯樣な恐ろしい目に逢ふては、見物も何もあつたもので御座いません、依て暫く隱身の術を用ひて、自分は全く此等の事を免れて、他の同行たる飮食物の遭遇する所を傍觀しながら、併せて此の道中の奇觀を賞することゝ致します。

この旅を致しますに、先づ第一に通らなければならぬのは、消化街道の入口に當る大門で御座いましてこれは俗に口脣門と稱へ、上脣、下脣と云ふ二枚の大扉が上下から閉づるやうになつて居りますが、此の大門の上には一面の額が掲げてある、而してそれには『生命の門』と云ふ文字が認めて御座います。

この門を通抜けて後側から眺めますると、同じく額面が掲げてある、然るに、これには『禍の門』と云ふ文字が筆太に認められてあります、彼の『口あけば脣寒し秋の風』とか、『口あいて腹綿見ゆる柘榴かな』などゝ云ふのは何れもこの門を歌つたものだと云ふことで御座いますが、何せよ餘程不思議な又大切な門で御座いまして、その扉の開閉に由て、生きもし、死もし、鬼も出、佛も出ると申すことで御座います。此門を通つて僅か參りますると直に又一つの關所に差掛ります。これは音に名高き齒牙の關と申しまして、その構は實に素晴しいものである、先づ齒齦と云ふ淡紅色の堤の上には、齒牙と云ふ眞白な大理石の柱が十六本堅固に立並び、これが前の口脣門の扉と相對して同じく上下にありますから、都合三十二本の柱が御座いまして、それが各々堤の底に隱れて居る顎骨と云ふ岩から生抜きになつて居ると云ふことで御座いますが、その石材を調べて見ますると、なか／＼大理石位のものではない、中の方は大理石のやうな質であるが、その上の方は琺瑯質と云ふ非常に堅固なもので出來て居りまして、身體の世界廣しと雖、これ程堅固なものは無いと云ふことで御座います。さうで御座いませう、この關所を通る旅人はその面の異るが如く、その性質も百人百様で御座いまして、或は炒豆の如くカチ／＼したものもあり、餅の如くベタ／＼したものもあり、或は湯の如く熱きもの、又は氷の如く冷きもの、又砂糖の如く甘きもの、梅の如く酸きもの等千種萬様の旅人が御座いますが、これを一々取調べて、大きな顔をして來るものは、これを取挫いで小さくし、剛のものは頭から嚙碎いて、これを柔かにして通過を許すのが、此の關所の役目でありまして、少なくとも日に三度は多勢の旅人が群をなして此處を通行致します、その間にも間食と申してポツ／＼一人或は二三の同行を伴ふて通るものがある、これとても素通りは許しませぬ、斯樣な具合で毎日／＼その務を怠らず、七十年も八十年も此の關所を張つて居るので

ありますから剛氣なもので御座います。併し如何に堅固な關所とはいへ、斯様に劇烈な執務をする所であり、且つ様々の旅人を取扱ふ間には隨分亂暴な旅人にも遭遇致しますから、往々關所の柱が傷みます、併しこの柱を破壞致しますのは、旅人の罪よりも、寧ろ關所の掃除が惡いと破壞するので御座います。所謂飲食物と云ふ旅人の中で、この關所の柱を壞しますものは、先つ餘り熱烈なるもの、又餘り冷酷なるもので、何れも柱の琺瑯質に罅裂を入らす虞がある、次には根性の酸いもので、これは柱を溶解す傾がありますから油斷がならぬと云ふことであります。これよりも困りますのは、普通旅人が此の關所で取扱はれます間に、柱の間に草鞋切を引掛けて行つたり、様々のものを柱に塗りつけて參ります、それで此の後の掃除を怠り或は掃除が行屆きませんと、それが分解して柱を溶し、それから段々壞れて遂に齲齒と云ふやうな狀態になるのであります。そこでこの關所の柱の掃除と云ふことは極めて大切なことで、朝晝晩と三回の大群集通過の後に掃除致せば宜しいのでありますが、少なくとも朝起きたときに齒磨粉と毛楊子を以て十分清潔に掃除することが必要で御座います。

此處の御關所が壞れますと、顏貌も醜くなり、發音にも障碍が起り、或は痛が起るのみならず、咀嚼と云ふ最も大切なる役目が忽諸になりますから、少しく堅い物は取ることは出來ず、物の味も十分に出ない、のみならず黴菌も多數に發生し、中には結核菌などと云ふ大賊も混じつて居りまして、これが齲齒と云ふ柱の穴より忍込むで頸の邊に結核病を起すと云ふやうな心配もあり、尙ほ生ごなしの物が平氣で咽頭の峽を通過する、それで身の丈の法外に大きなものや、頭の堅い頑固なもの共も素通り致しますから、やがて此等の亂暴者が胃とか腸とか云ふ宿場に參りますと非常な迷惑を掛けまして、胃加答兒を起すとか腹痛、下痢を來すと云ふやうな狼藉に及びます。依て齒牙の關所の掃除を怠らず、若し柱に傷

が出來たときには速に齒科醫に依賴して修繕することが必要であります、而して此處を通過するものは何に限らず、十分頭から嚙こなして、大きなものは小さく、硬いものは軟かにして、後々胃や腸に到て迷惑を掛けぬやうにしてやらなければなりませぬ。能く咀嚼されたるものは半ば消化したものであるとは俗に西洋で申すことでありますが、全く虚言では御座いません。

（以下次號）

入浴に就て

何時入浴すべきか

何時入浴したらよいかと云ふ事は一言で斷言は出來ません、誰も皆自分の都合や家の都合が有りますから差支を差置いて迄も入浴する事は出來ますまい只自分に差支の無い時間の内では衞生上何時を選んでよいかを知る爲に、茲には只入浴の不適當な時を述べて置きましよう。第一に餘り寒い時には不適當で有ります。之れは浴場の構造にもよりますけれど時によつては入浴中にも風を引く樣な事が無いとは云へず、殊に入浴後は危險であります、入浴して直に其儘で寢に就く樣な時ならば宜しいが、入浴した當分が溫かで氣分が好いからつい油斷して體を冷して風邪に罹る事が珍らしく有りません。第二は餘り滿腹の時は適當でありません。滿腹と云へばつまり食物が胃に一ぱいに成つて居て之れから如何にか處置をつけねばならぬ時でありますから、胃は是から盛に消化作用を營むので此作用を助ける爲めに多くの血液が必要で有ります、然るに此時に入浴して湯で皮膚を刺戟したり手足を運動したりするので有るから、血液は多く皮膚表面や手足の方に來て仕舞ふ事と成ります、入浴して皮膚が眞紅に成るのは皮膚に血液の集まつて來た證であります、其爲めに肝心の胃の方はお留守に成つて血液は一向に寄つて來ないから胃の仕事は思ふ樣に出來ないので有ります、飯を澤山喰つたから腹を空かさうと思つて湯に入つて

十分運動をして來たが如何も胃の工合が惡くて困るなど〻不服を言つて居る人もありますが、胃の仕事を妨げて置いて、働きが無いと云ふ小言は無理であります。第三には又餘り空腹な時も適當で有りません、空腹で湯に長く入つて居た爲に逆上したり眩暈を起したりする樣な事も往々にしてあります、此時は腹に食物が無いから用事は無いので多くの血液が頭の方へ行き腦充血の爲めに斯かる事に成るので有ります、何分入浴の爲めに心臟の活きは非常に昂進して居るので有りますから餘り空腹の時で無くとも長く入つて居れば逆上を來すのは皆さんのよく御存じの事で有ります。序ながら申しますが此樣な次第で有りますから、心臟に病の有る人等は入浴の時には十分注意をしないと、餘りに心臟の活きを強くさせる爲めに取返しの附かぬ樣な事にも成ります又老人で血管の弱つて居る人等も怖しい事が有る、他の血管と同じく腦の血管も弱く成つて居ますからあまり心臟が盛に活いて血液の壓力が強く成つて來ると其弱い血管が終に破裂して腦充血——湯槽の中で死んで居たなど〻云ふ樣な事もあります。偖て元の話にもどりまして以上の條件を考へて何時頃がよいかと云ふと、午後の二三時頃等は最も適當な時間と思はれます、勿論此時に限つた事はありますまい。

○如何なる湯に入るべきか○

申す迄も無い樣な事ではありますが念の爲め述べて置きましやう。第一は溫度の關係で有ります、湯の溫度は西洋人のと日本人のとは非常に違つて居る、西洋人の入浴して居る湯は普通三十五六度だそうで有りますが日本人のはずつと高くて四十四五度で有りますから。十度位違つて居るので有ります、殊に東京の町の湯屋のは熱い、地方から來立ての人は驚いて手もつけられない樣な面をして居る中へ平氣で入つて居る、田舍者は面喰つて其儘湯槽の外でちやぶ〱洗つて歸つて來たと云ふ話もあります、然るに自家の湯は如何かと云ふと一體に湯屋のよりは低

温で有ります、家ではぬるい湯に入つて居ても湯屋へ行くと熱いのへ入る、熱くて苦しくても辛抱して入る、面をしかめ乍らあゝ宜い湯だと云つて居る、隨分苦しい虚榮で居ります、何でも熱い湯に入る事の出來ぬ者はえらく無いと思つて居る、妙な習慣で有ります、西洋人がぬるい湯に入るからと云つてぬるい湯でなければならぬと云ふのでは有りませんが強て熱い湯に入ると云ふ必要も亦無からうと思はれます、學問上から云へば熱い湯は害に成るので有りますが日本人には長い間習慣に成つて居るのでありますから今更之れを改める事も出來ますまい、今急に三十五六度の湯に入る樣な稽古なぞしたら、それこそ大に害が有りましやう、だから熱くて困る湯に辛抱して入る樣な愚を學ばずして只自分の身體に相應し自分が愉快に感ずる位な湯に入る樣にして居度いと思ふので有ります、又特に注意すべき事は心臓の惡い人達は成るべく低温の湯に入る樣にせねばなりません、其他の人も始め入る時には温を低くして追々適當な温に高めた方がよいので有ります第二、には水の性質で有ります、之れは入浴用に限らず凡て化粧用の水としての注意で有りますが、皮膚を洗ふ水としては硬い水は不適當であります、水が硬い時には石鹸も效を奏せ無いのみならず皮膚の柔い婦人方には肌を荒す事とも成ります。最も適當なのは雨水で有りますが之れも西洋の樣に雨水を貯へる裝置が日本の家屋には有りませぬから致方が無い、先づ硬い水でだに無くば宜しいのです、殊に東京其他水道の敷設されて居る都會では、水の心配はあまりありません。第三、には水の中の不潔なる事に就てで有りますが、湯の中殊に湯屋の湯の中等は極めて不潔なものでありまして、只垢が浮いて居ると云ふに止らず如何樣な恐ろしい病菌が居るかも知れぬのでありますが、どうも人々が餘り之を恐れて居らぬ樣に見えます。よく世間の人が指に少し傷の有つたのを其儘で湯屋に行た爲に其處へ湯が入つたので瘭疽に成たと云ふ話を致しますが、湯に入つたばかり

なら瘭疽に成ると云ふ理由は有りません、湯の中には無數の化膿菌が居るのでありますから、傷口が有たら其處から入つて指が化膿するのは自然の理で有ります、傷が有つても菌の入ら無かつたのは其人の幸運なのでありますが其樣な幸運は毎回あるにきまりませんから傷の有る人は其用意をして、小さな傷にでも半創膏を貼つてから入浴する樣にせねばなりません。殊に危險なのは藥湯とか溫泉とか云ふ樣な類でありまして、之れに好んで入る人は何か身體に故障の有る人で、又其樣な人の例として生暖い藥湯にぢつと長い間入つて居るのでありますから、如何程多くの病毒を落して行くかも知れません、其上藥湯や溫泉は生暖るくしてあるから病菌の死する事も少ないから、目にこそ見えねあの湯の中には無數の黴菌がうよ〱して躍つて居るのであります、其中に傷のある身體を持て行くのは實に亂暴と云はねばなりません。私が昨夏伊豆のある田舍の溫泉で見た一例は、溫泉に不動樣か何かゞ有つて、其御利益で萬病が治ると云ふので有りますが、其中の最も低溫な湯に來て居る女が七歲ばかりの娘を伴れて居まして其娘の頭が半面全く眞赤に糜爛して處々に膿汁が流れ見るも痛ましき姿でありますが、其母が其娘の糜れた頭に溫泉の湯を手拭に浸してはかけてやり〱何時迄もやつて居る、よく聞て見ると熱湯か何かで火傷した傷であるが半年にも成るが治らぬ、不動樣の御湯を毎日頭にかけて居るが如何も治らぬとの事です、湯をかけなければもうずつと早く瘢痕を成して癒えて居るものをと同行の者抔が注意しましたが、不動樣の湯で治らぬ物が他の方法で治る筈が無いと云つて相手に成りません、實に氣の毒な者で此母が此湯をかけて居る間は何時迄も娘の頭は糜れて居るで有りましやう。化膿菌ばかりで無く湯の中には種々の病毒が居ます、湯から歸つて眼が痛み始めて一夜の中に盲目と成つたと云ふ樣な恐ろしい例も有ります。要するに一般の人が今少し湯の中の恐ろしさを知つて、傷のある人は十分に用意をし又眼

や生殖器や肛門の様な粘液膜のある處はよく注意して、湯から上る時に掛り湯でよく洗ふ様に致し度いもので有ります。

如何に洗ふべきか

湯に入つて如何に洗ふかと云ふ様な事は私が申すよりも御婦人方の方が遙によく御存じの事で苦心を重ねて居られる事で有りましやうから、私は只衛生上の事を一二言申して置きましやう、第一には順序で有りますが湯に入るには始めの間は頭は湯につけないで置いて順に下の方から濕めて行く様にせねば成りません、始めから頭を濕めると前に申した様に逆上する恐れが有ります。第二に手拭で有りますが、之れは「タオル」がよいか日本手拭がよいかと云ふ事に成りますが、何方でもよい只目的によるのであります、垢を早く十分に落さうと云ふ目的には「タオル」の方が適當でありますが肌を荒す恐は有る、日本手拭は其點は勝つて居る、垢を落す事も日本手拭を用ゐても叮嚀に洗へば十分に目的を達する事は出來る。つまり何れでもよい事と成ります。併し以上は首より下の話で有りますが、面には手拭は用ゐぬ方がよい、それも只垢だけ取る目的ならば如何でも構ひませぬが、婦人の面は左様のみは云はれませぬ、面の皮膚を細くする爲には手拭は用ゐないで柔い糠袋か自分の手で洗ふ方がよい、手で洗へば思ふ通りに洗ふ事が出來て極めて都合が好いので有ります第三に何故湯に入らねば垢は落ちぬかと云ふ事を一寸述べて置きましやう、同じ様に石鹸を以て洗ふのなら水で洗ふも湯で洗ふも同じ理であるのに、實は水で洗つては一向垢は落ちないが湯で洗へば直に美しくなる。之れは明かな事でありまして皮膚には無數の小さい皺が有りまして垢や塵は小さき片と成つて此小さい皺の間に入つて居るので有ますから、皺が延びなければ垢は取れる事は有りません、そこで水で洗ふ時は如何かと云ふと冷たい爲めに皮膚は收縮して仕舞つて皺は益々深く成つて仕舞ふ、其上を水をつけたり石鹸をつけたりして如何程ごし〱

洗つても無益であります、之れを湯につければ其溫みの爲めに皮膚は延び廣がつて皺が無くなる、其所へ石鹸をつけて洗へば垢は少しも殘る事は出來ませぬ。だから入浴した時には其理を考へねばならぬ、先湯に入つてよく全身を溫めて然る後に石鹸を用ゐて洗はねば無效で有る、小さい浴槽等で人の多い時に他の人が前に入つて居るから自分は先づ槽の外でよく洗つて、其後人の出た時に入つて溫まつて上らうと云ふ人が有りますが之れは全く無意味で有ります、洗ふ時に皺の奥に潜んで居た垢は湯につけられて笑つて居るでしやう。

○○○○浴後の注意○○○○

浴後十分身體が乾かない間に汚れた肌著や臭い足袋を著ける程氣持の惡い事は有りません、汚れた物を著る事の惡いのは勿論で有りますが、身體を十分に拭ひ取ると云ふ事も是非怠つては成りませぬ、入浴に用ゐたる細い手拭で拭はうとするから十分にふき取る事の出來ない譯であります、浴後には是非別に乾いた「タオル」を備へて置いてそれで十分に拭ひ去る樣に致し度いもので有ります、ぬれた儘で肌著を著ると肌著の濕る爲に何時迄も氣持の惡いものであります。次に注意する事は爪を剪る事で有ります爪は何時切ても宜い樣なものでは有りますが、何時か切らう等と考へて居るとつい機會が無くて長く延びる迄棄て置く樣な事に成つて宜しく有りません、浴後は爪が柔く成つて居るから剪るには大變便利で有りますから常に此時に剪る樣に癖をつけて置けば面倒なく行なはれます、大概爪と云ふものは長く成つて始めて剪るので無くして、長く成ら無い樣に度度切るべきもので有ります、足の爪はまだよいとしても手の爪は延ばして置く事は實に危險で有ります吾々の病氣を人に移したり移されたりするのに爪程大なる關係を持つて居るものは有りません、種々の病毒に觸れても外の部分はよく洗へば取れますが爪の間に入つたのは取れにくい、人は手を洗つても此所迄は注意せぬ．だから爪の間には常に無數の黴菌

が住んで居るので有ります、此恐ろしい爪を持ちながら平氣で食物を撮んだりするので有りますから實に危險で有ります、常に爪を短く切つてだにあらば此危險は餘程避けうる事となるので有ります。

○○○○入浴の效果

吾人日本人が入浴によつて得て居る利益は實に非常なもので有ります、今只其二三を擧げて見ましやう。第一は運動で有ります、日本婦人が若し西洋の人の樣に月に一度位しか入浴しなかつたとしたら日本婦人の健康は實に恐るべき物であるに相違ありません、前に申しました如く日本の女は別段運動と云ふものは無いので有りますから、深窓の處女や大家の奥樣等で臺所の用事もせず滅多に庭へも下りて來ない樣な人には入浴と云ふ事は實に唯一の運動で、此御蔭で命を繋けて居ると云つてもよい人も無いでは有りません。入浴する位はさしたる事でも無い樣では有りますが決して左樣で無いので湯に行けば各自美しく成らうと云ふ希望で盛に洗ひ立てるのであるから隨分烈しい運動をする、其上入浴の時の運動は局部の運動では無く、全身を動かすので有りまして、且つ誰も皆湯に入つて心身爽快に成つて居て運動するので有りますから。運動に必要なる條件は多く備へて居るので有ります。日本の婦人に入浴と云ふ事の有るのは實に天の與ふる恩惠で有ります。又之れも自然の要求の結果で有りましやうか一體日本の婦人は非常に長湯をする、之れは化粧をする爲に時間を要するのでも有りましやうけれど、それにしても隨分悠々と入つて居る、洗つては湯につかり溫まつては洗ひ、何時迄も盡きざる有樣で笑ひ興じて居る、之れでこそ今迄健康を保つて居たので有ります。第二は淸潔の點で有ります、支那では湯に長く入らぬのが自慢で垢がたまる程寶がたまると云つて喜ぶんださうで有りますが、道理で實に不潔である一種の臭味が有つて近寄られない、日本の女とは大變な相違で有ります。又西洋諸國はあれ程文明開化の土地であるのに入浴する事が少なくて月に一度位

だと申します、だから西洋婦人は一見甚だ美しく見えて、白き鮮かなる洋服を着たる姿などは餘程さつぱりしてよく見えては居ますが、實は身體は日本人に比較すると大變不潔なものだそうでありまして、其證據には西洋の女には腋臭のある者が大變多いそうで有ります、成程外から見える處は美しく洗つてありますが全身の入浴をしないから腋下等には氣の附かぬのは無理も無い事で御座います。又入浴の爲めに只清潔に成ると云ふばかりでは無く全身の垢を落す事が健康上に大に關係が有る、人間の皮膚は只體を包んで居ると云ふのみならずして諸種の作用を營んで居る、其内でも汗を出す事や呼吸する事は殊に必要な事で有ります汗を出すのは排尿と全く同じ事で有つて體内で仕事をして不用に成つた有害の物を體外に排出するので有りまして、呼吸作用は口から呼吸するのと同じ作用を皮膚表面の小さい孔から四時營んで居るので有ります。然るに入浴しないで居ますと内から出る汗と外からたまる垢とが一緒に固まり附いて其爲に最早内から汗の出る道も閉され呼吸の孔も塞がれると云ふ理窟に成る、早い話が膀胱と肺臓とが同時に無くなる樣な譯で有りますから健康上非常な障礙を來す事は明で有ります。第三には血液の循環の好く成る事で有ります、體内の凡ての器官は其機能を敏活に行なふには血液が十分に來て與れねば思ふ樣に出來ない、血液が停滯して居る樣では困るので有ります、ところが入浴すると、其濕度の爲めや運動の爲め等で血液が盛に活動して循環が甚だよく成るから各々器官が皆其恩澤に霑ふて仕事が活潑に成つて來る、之れも健康上非常なる影響で有ります。今一つ大なる效果として舉げねばならぬのは、第四に精神上に及ぼす影響であります、入浴する事程小さい價を拂つて大なる精神の快樂を得るものは有りますまい、湯に入ると實に何とも知れぬ程愉快に成る、凡ての勞れがいやされ、凡ての苦が取去られる、何だかくよ／＼心配して居た煩悶も一度の入浴を以て直に解決された樣に成る、

實に驚くべきもので有ります。之れ即ち前に述べました通り運動はする、體內から出だ害物は取去られてさつぱりする、温かな湯に入つて氣持はよくなる血液の循環がよく成り器管が敏活に成ると云ふ樣な事が集まつて精神の上に非常な愉快と滿足さを與へるので有ります、私の知て居る老人に極めて氣の短い頑固な氣難しい人が有りまして常に家族が困つて居ましたが、時々それが烈しく成つて家族の誰彼と無く當りちらして來る時に、皆が色々とすかしすゝめて湯に行かしめる樣にして居ましたが、湯から歸つて來ると全く別人の樣で鼻歌でぶらりと歸つて戲談を云ふと云ふ樣な次第で、其日は一日上機嫌であります。記せばまだ有りましやうけれど之れだけでも入浴の利益は大したもので有ります。今入浴の話の序に婦人の

毛髮を洗ふ事　○○○○○

に就いて一言して置きましやう、日本の婦人は近來は西洋風の束髮が流行して來ましたから、洗ふ事も餘程注意せられる樣に成りましたが、髷に結ふて居た間は滅多に洗はない人が多かつた、之れは頭の爲めに甚だ宜しく有りません、髮は長く洗は無いで置いて、其上に刺戟の強い臭い油をつけて髮を固め強く引締めて結ふて置くのは毛の爲めに甚だ有害な事で有ります、毛髮は是非少くとも二週間に一度位宛は洗ふ樣に致し度いもので有ります。又洗ふにも從來は、ふのりだのうどんこだのを用ゐて洗つたものださうですが、之等は却て不潔で有ります、常に度度洗ふ樣にして餘り強き油等を用ゐさいせずば其樣な物は用ゐずとも湯で洗つて澤山で有ります。其湯には前申した樣に矢張軟水を用ゐる事は勿論で有りますが、温度は餘り熱湯では害が有りますから生温い位の湯にして用ゐ、湯でうまく落ちぬ時は生玉子を用ゐるのが適當で有ります。次に毛髮の平常の注意で有りますが、髮を結ふにはあまり固く結ばない樣にし、梳く時にも餘り強く刺戟せず、梳櫛も目の細きに過ぎぬ樣に注意し、其他の櫛も木製のよ

りは成べく角か護謨製のを用ゐた方が適當で有ります。又雲脂が出て困る時には、櫛で盛に梳く人が有りますが之れは無意味で有ります、大體雲脂と云ふのは頭の皮膚が落屑するので有りますから、いくら梳いても梳けば梳く程其刺戟の爲めに新しく皮膚が落屑し來るばかりで決して止まるものでは有りませぬ、此時に適當な方法は「アルコール」を雲脂の出る處へ一面にすり込んで置くので有ります、「アルコール」は揮發性のもので有りますから冷て氣持のよいのみならず雲脂のとまる事は妙で有ります、併し注意せねばならぬ事は「アルコール」は燈火用のものは石油を混じて賣て居ますから、藥種屋で求める時に注意して飲料の「アルコール」を求めねばなりません。又毛の脱落するのも矢張雲脂が原因に成る事が多いので有るから其時にも「アルコール」を用ゐてよいので有ります、それでとまらずに頻に毛が脱ける様ならば早速皮膚科の醫師に見せねばなりません、早く治療すれば譯も無くなほるもので有ります。

育兒

小兒の泣く意味

井上小七

赤坊は、未だお父様ともお母様とも云ふことが出來す、何が欲しいとも、何うしたいとも云はれません、併し赤坊とても、相應の望がある、望と云ふては少し穩當でないかも知れませぬが兎に角何となしに具合が惡いとか、快いとか云ふ感じはあるのでありますから、その感じを訴へる、即ち啼いて告げるのであります、それですから小兒の啼くのは先づお話と見て可い。この小兒のお話に注意致しますならば、餘程その意味を解することが出來るのであります。殊に生みの親は自然とその小兒の啼く意味が分かる筈のものであります。只不注意なお母様、考の足り

ないお母様は、何うかすると、全くその小兒の啼く意味が分からずに、徒に癇癪を起されることが往々あります。私の近所の或お母さんが、その小兒の啼くのを止めやうとして頻りに搖つてゐましたが、なか〳〵啼止まないので、果は頓狂な聲を出して「如何すれば宜いのさ、何うしやうと云ふのさ」と云ひながら、生れて何月もたゝぬ赤坊を、ぢれつたそうに詰問してゐるのを見ましたが、これは赤坊が泣くので五月蠅から止めさそうとするのである、而して赤坊が何事かを欲するのであると云ふことを認めて居るのではあるが、それが果して何事を欲し、何事を訴へるのであるかと云ふことに就ては少しも詮索しないのであります、只撼ぶる、癇癪を起すだけのことであります。

概して嬰兒の不平そうに啼く時は、何處ぞ痛い所があるか、寢牀の具合、又はその寢かされて居る體の位置が悪いか、暑すぎるか、寒むすぎるか、又は餘り強く衣服が纏きつけられて居るとか云ふのでありますが、どうかすると釦子、煎餅の片、甚しいのは針などが衣服の中に在て、それが絶えず刺戟するので啼くと云ふやうなこともあります。

幼兒の生れた時から、絶えず其兒に注意して居るお母さんなれば、その啼くのを見て、何が不足なのか。どうしたのかゞ直ぐ分かるのであります。尤も前に申上げた例の如く、幼兒は啼方に由て、その欲する所を訴へて居ても、母の不注意、或は考が足りなければ、矢張その意味を推測することも出來ず、赤子をつかまへて「どうするのさ」と、御自分のどうかしなければならぬ責任を詰問して、ぎつ〳〵をくはせる様なことになります。

それで何人も心得て居らるべき事を、次に申上げて置かうと思ひます。

先づ二時間置き、或は三時間置きと云ふやうに、時間を正しく授乳なされたならば、幼兒は決して御腹が空いて泣くと云ふことはありません。此點からも、規則正しく乳を與へると云ふことは必要であります

さうでなければ、他に泣くべき原因があつても、先づ乳が欲しいのであらうと云ふので。無闇に乳房を哺ませて、消化を害する計りでなく、真に泣くべき原因も、これで紛ぎらされて發見せずに居るやうなことになります。それで規則正しく乳を與へてあるのに泣き出すならば、これは何ぞ前に舉げた樣な原因があると云ふことに氣が付なければなりません。續けざまに泣く時に、何處かに絶えず疼痛があるのでありまして、往々其痛い處に手をやつて居ることがあります。又幼兒の體の位置で以て、疼痛のある所が分かることもあります。腹の痛い時には、脚を上の方に縮めて啼く。御腹が平常よりも大きくなつて居て、絶えず烈しく泣く場合には、疝痛があるのであらうと推察されるのでありますが、此時には、食物を與へれば、暫時泣きが止みますけれども、忽ち復た一層烈しく泣き出します。

引續き泣き立てるのは、皮膚に炎症があるか、針が刺すか、ボタン、紐、或は強く締めた衣服の皺などが、よく原因となつて居る。

何かゝ口に觸れる時に泣くならば、そこに痛みがあるのである。懐く時に甚く泣き立てるならば、丁度其のつかまへて居る處に痛みがあるものと思はねばなりません。

非常に甚しく而も暫時泣き立てるのは、夢を見たのか、或は脳脊髓神經が障碍されて居る時であります。

咳をして直泣き立てるのは、其咳で以て痛みを起し、或は咽喉か腹に爛れて居る處か、或は小さな創があるのであります。

疲れて居つて、眠いので有るが、他の小兒の爲に、騒しいために、或はからだの位置が悪いために、眠いのを妨げられる時には、泣きながら目を擦るものであります。

泣き立てずに「ぐづる」時には、風を引いたとか、鼻や咽喉に痛い處があるのであります。

また餘り振りたり、撼つたり、懐いたり、抱へたり、すると、夫れが却て嫌であるとか、或は往々痛みを

起して泣く事があります。神經質のお母さんは、そのイラ〳〵したりヂレたりする爲に、これが傳染して、その小兒迄が神經質になる事があります。

苟も母たる者は、全國民の性情、否全世界の性情が小兒の教育に關係して居ると云ふことを考へねばなりません、斯く嚴粛にして、且つ重要なる責任を持つて居る小兒の養育と云ふ事より神聖なる務めはどこにありませうか、これこの地上に於ける最も大切なる事であつて然かも母たる者に信任されて居るのであります。

母親の不注意から來る子供の病氣

醫學博士　唐澤光德

これは唐澤博士が日本兒童學會でせられた演説の大要でありますが、有益な御話と存じますから、同會の許を得て茲に掲載することに致しました。（編者）

私は兒童の傳染病といふ題を出して置きましたが、能く考へて見ますると少し問題がむづかし過ぎますから昨日から考へ直しまして急に母親の不注意から來る子供の病氣、母親が注意して居らなかつた爲に、不注意だつた場合、又知つて居つても等閑にした爲に病氣になり、又死亡するやうな場合を擇びまして斯う〳〵いふやうな病氣になるから氣を付けよ、或は斯う〳〵いふ不始末があつたから氣を付けよといふように實際に適切に御注意になるべき事を御話しやうと思ひます。

時に子供が亡くなりました時分に、私共小兒科醫として母親なり父親なりからして亡くなつたことを怨まれるといふことなしに、却つて自分の不注意を詫びられる、實際自分の損くじりであつたといふことを詫びられることがございます、チョット例を申しますれば日本でも新聞に書いて居る例で子供の窒息

死をするといふことです、寢ながら乳を飲ませる、朝起きて見ると子供が死んで居るといふやうなことですが、それ等は親の不注意の極端な例ですが、西洋に於ても之と同じやうな例があります、私はウヰンナからハンガリーを歩るいたときに病院に入院した子供に食道狹窄が澤山あつた。日本では子供の食道狹窄はちツともないにも拘らず、どういふ譯でハンガリー地方にさういふ風な食道狹窄が子供に多いかと氣を付けて見ました所がそこらの土地の癖と致しまして苛性曹達の水で物を洗ふ風習になつて居る、所が其苛性曹達の水を臺所に置いてあるのを、子供がお腹が減つた揚句に斯ういふ罎に這入つて居るのを旨まいものが這入つて居りはせぬかと思ふてガブツト飮んで仕舞つてそれで子供が食道の狹窄を起した場合なのでありました、それ等のことは極く極端の例ですが、我々が日常兩親殊に母親、或は母親に代る所の乳母とか子守の不注意の爲に病氣を起して時に依ると死亡し、或は死亡しない迄も非常な大きな事柄になることが多いのでありまして、是からお互にさういふ事を調べやうと思ふて居ります。」

それで先づ母親自己の不注意の爲に子供の病氣が起つて來る場合を申しまするど、我々が其家庭に行つて見て一番初めて氣が付きますのは子供の榮養自身よりも其親がどの位子供に對して注意が行屆いて居るかといふことに氣が付くので、醫者として治療をするにも之が一番重要なことにして居ります、チヨツト申しますれば親が不取締であると、殊に母親がふしだらであると、家中の掃除が行き屆いて居りませぬと雜巾が散らばつてゐるとか、帶が散らばつてゐるといふやうな所では、子供を見ましても直ぐ分ります、不性の母であると襁褓を取換へるにも面倒でありますから二度も三度も打つちやつて置いて其爲に子供の肛門が爛れて濕疹を起して、ハヽクサのやうなものが出來て子供が其ために腫物が出來たり神經質になつたりすることが隨分見受けます事柄でありますそれからこれも母親の不注意に屬す事柄ですが

家によりますと餘り子供を下女だの子守だのに任して置くと云ふことから非常な重大な事柄が起つて來ることがあるので、私共は不斷下女や子守が子供を連れて來ると云ふやうな場合には診ないで歸してやります、親が連れて來なければ診てやらぬと云ふことにして居ります、自分の大事な子供を醫者によこすに子守や下女や杯が連れて來て親が來ないと云ふことは宜しくないことで、醫者としては親が來ませぬと子供はどの位惡いのか原因がどうかと云ふようなことは少しも解りませぬ、さう云ふことが解らぬために切角助かるべき子供も助からぬ場合があるのでございます、其他全く子守や下女に任せて置くと重大のことが起つて來ることがございますが、東京でも田舍でも能くあることでありますが、よく肥つて居る母乳で育つて居る子供で何んの原因か分らずに乳を吐いて其乳を吐く事がどうしても治らないで死亡する事が隨分あります、それは親は知りませぬけれども子守に子供を預けたり下女に子供を預けたりして表に行つて遊ばして居る中に、何も構はぬで餡コロ餅や蜜柑や豆の這入つて居る牡丹餅とか云ふものを無教育の乳母や子守や下女杯が子供の年齡如何に拘らず誕生前であらうがあるまいが少しも構はず子供に與へてやると云ふことから、重大な事が起る事があります、此際それらの不消化な食物が不幸にして腸の方にひつかゝりますると腸の中が一度栓をしたやうになつて、丁度例を言ふと目白の糞詰りのやうに滿一年や一年半の子供で在ると事に依ればそれらが原因になつて死亡して仕舞ふやうなことは隨分ありがちのことであります。

是等と同じやうに親自己が不注意のために起りますのは傳染病に對する親の注意如何であります、親が傳染病のことを注意して居らなかつたために子供が重い病氣に罹り又亡くなることが隨分あります、其手近い例を申しますれば百日咳杯が一番良い例であります、百日咳でありますれば誰もやることでございますから、傳染しても宜いだらう百日咳に罹つて

も百日咳に罹れば癒ると云ふような觀念を有つて居りますから、自分の家に滿一年位の子供が夏は兎も角冬の時分に百日咳に罹りまするると死亡する者が數多くあります、此際親が氣を付けてやらぬと他の子供に傳染と云ふやうなことがある、例を採つて言ふと二人りの子供が在つて上の五ッの子供が幼稚園に往つて百日咳に罹つて家に歸つた時に下の小さな子供があると其子供に傳染するから他に預ると云ふことにしますれば傳染せずに濟みますが、それを氣が付かずに傳染して仕舞ふとそれが惡く行くと訌じて肺炎を起して死亡すると云ふやうなことはありがちのことである、之れと同じやうに醫者の家に連れて往きました際にも百日咳の子供が居る、其他傳染病の子供が居ると云ふ時には親が付いて居らぬとさう云ふ者と一所に遊ばせるとか、又は他の子供の持つて居る玩弄物を持たせると云ふことをするために傳染しなくても宜い病氣にうつッて死亡するやうなことが多いのです。

其他一般親の不注意のために起るのは下痢症の起るのであります、親の食べ物に關する不注意から起つたために隨分ひどい病氣が起ることがある、一番著しく感じましたのは或る一年位の子供が原因不明で乳許り吐いて死んだと云ふものがありました、どうしても親の乳を呑ませぬで吐いて許り居つて死んで仕舞つた場合があつた、どうしても原因が解りませぬで、解剖をして見ました所が胃の近くの所で不斷ならば此小指位の大きさの十二指腸の所が横が三寸位開いて其所のところに福神漬の塊がたんと詰つて居つた、福神漬の塊の中の何が詰つて居つたかと言へば竹の子をパリ〳〵大根の干したものゝフヤケて居つたのが腸を割いて行くに隨つて十五六位出て來た、どうしても原因が解らなかつたのが解剖して見て解つた、子供の滿一年位になつた者にお飯を食べさして福神漬をやつたと云ふのでありませう、親が知つて居るかどうか知りませぬが福神漬を食べさしたのがお腹の中でフヤケましたからそれが腸の管に

栓をするやうになつたから乳を吞んでも吐いて終に死ぬやうになつたに相違ない、斯う云ふ風な場合は詰り親が食物に關する注意が無いために切角育てかけて居る子供を死なしたと云ふやうな立派な例であります。

それと同じやうに段々ありますのは夏頃に見ます所の疫痢、或はハヽヤテの場合、今また俗に言つて居る霍亂のやうなもので急に死ぬやうな場合に隨分後で親からして自分の不注意であつたと云ふことを述べられるやうなことは少なくない、之れは數多くありますから一々例は申しませぬが、之れと同じやうな風に全く不注意で起るところの子供の病氣には相違ありませぬけれども親の知識が足りないために起るやうな子供の病氣が少なくない、譬へて見ますれば少し藥屋の攻擊をするやうでございますが、救命丸の樣なものであります、能く田舍から來た人杯で親の乳で育てゝ居る子供で何時迄も半月も一と月も下痢が癒らぬと云ふて訴へて來る者がありますさう云ふ時には親に向つて何か丸藥でも吞ませないかと云ふことを聞きますと大抵救命丸を吞ませましたと答へます、救命丸は大きい子供にはどう云ふ效力があるかどうか知りませぬ、又救命丸には何が含んで居るかと云ふことも知りませぬけれども乳吞兒に救命丸を吞ましますれば下痢が起つて來る、親の乳を吞まして置いて別に下痢が起らない場合で何か故障があつたために救命丸を子供に吞ましたと云ふ場合に子供が下痢を起したと云ふことで我々の所に連れて來ることが少なくない、是等も親の智識が足りないために子供に病氣を起させる例であります、之れと同じやうなことで時に依るとどうも子供が寢ないで困る、家の赤ん坊は奇體な赤ん坊でどうしても寢ない大勢で抱いて居ると屹度寢ますけれども横にして布團の上に置くと寢ないと云ふ訴へを起して來るのでございます、一日や二日ならば抱いて濟みますが一週間二週間晝も夜も家の者が大勢かゝつて抱き詰にして居らなければなりませぬ、布團の上に置く

と泣いて困ります、之れでは家の者が睡眠不足になつて困りますと言ふて訴へて來るのがありがちのことであります、是等は矢張り子供の養育法を知らぬために起るところの事柄で、詰り子供が抱かれなければ寢ないと云ふ習慣を付けられて終に其家の者が夜中にも寢ないで其子供を抱いて居なければ寢ないと云ふことが起つて來た例でございます、さう云ふものには嚴重に言ひ付けて其子供を一晩なり二晩なり牀の上に寢せて置けば自然と寢るやうになります。

其外、之れと同じやうな關係は、食物の腐敗したのを知らないで子供に呑ましたために、病氣を起す、たとへて見れば、牛乳が腐敗して居るけれども知らぬで呑ましてナゼ下痢を起すかと云ふやうなことは少なくない場合と思ひます。

其外、同じやうな關係は食物許りでなく呼吸器の病氣であります　咳をすると云ふことから肺炎を起す原因になることが多いだらうと思ひます、之れにも色々の原因もございませうが、一寸した例を申しますると、アノ冷水摩擦、冷たい手拭で體を拭くとか冷水浴を使はせると云ふやうなことは、大人に宜いと云ふことから、子供に應用されると云ふやうなことは、時に依るとありがちのことであります。それと同じやうなことで、餘り厚著をさせるといかぬ、餘り大事にさせては子供は弱ると云ふ概念から、極端なスパルタ流が行はれて來る、さう云ふ教育法が盛んに行はれて來る場合もございます、之れも餘り極端にやりますれば、却て弊害が起つて、其ために冷水浴を餘り年齡の小さい子供にやりましたために神經過敏になつて睡りも惡くなつて來るから、三ツ四ツの子供に對しては冷たい手拭で體を拭くとか水をかぶると云ふやうなことをさせますと却て子供が神經質となつて惡くなる、薄著も程度問題で、餘り厚著をさせるのも惡うございますけれども、一二歳位の赤ン坊に極端な薄著をさせますると、態々戸外の空氣に觸れさせるのが宜いと云ふ點から、北風の

劇しい日にも表に出して置くと云ふことをすると子供が肺炎に罹り易いと云ふ廉がありますから、さう云ふことは能くありがちのことでありますが、能く注意をして欲しい事です。

同じやうな關係でもつとひどい事柄は、乳母と子守を傭つて置いて、それに子供を任せると云ふために起つて來ると云ふことが少なくない、今二階で御覧になつた中に富士川先生の有つて居らるゝ乳母氣質と云ふ本の中にもありますやうに、子供の病氣が解らぬ、段々乳母を調べて見ると乳母が酒を内緒で呑み過るために子供が腹を下して居ると云ふ例もありますし、又乳母が芝居を好きで見て居るために子供が五月蠅くてたまらぬから始終子供に駄菓子を與へて芝居を見て居る、そのために子供が下痢を起して來たと云ふことが書いてありますが、乳母子守の關係からさう云ふ風に病氣を起して來ると云ふこともあります、乳母を傭つて居つても家庭の八釜しい所であると、乳母が乳の出方が惡い、充分に乳を與へぬと八釜しい、苦情が出て困ると云ふことから、表から牛乳を買つて來て内證で袂に入れて置て牛乳を自分の乳の繼足しにやつて居る、さうして乳が充分であるやうに胡麻化して居る、それがために常に下痢を起して子供が危險になつて來る、人間の乳のために下痢が起つたかどうかと云ふことを解釋するに困難なことがある、奥さんに叱られる度毎に子供を表に連れて行つて牛乳を呑まして居つたとか、單り乳母ばかりでありませぬ、子守抔でありますれば乳母よりは年齢も少ないから、苦しまぎれにさう云ふことをやるのもある、氣をつけて牛乳も呑ませないやうにして居るのに下痢をする、或は泣くたびに色色な駄菓子抔をやる、醫者の所に往つて注意をされて、女中を調べて見て白狀してその原因の解つたと云ふことが間々ある、自分の不注意からして來たのであるけれども大變怒つて女中を叱るとか追出すと云ふことは少なくない、又同じやうな例で、子守が自分が遊びたいから澤山の子守が集つて居りまして

甲の子守が乙の子守に子供を頼んで置くと云ふやうなことは實際少なくないのでありまして、こんなやうな例を寄せますれば數多いことであらうと思ひます、自分一人で集める例は數が少なうございますから、この雜誌に皆さんから例を集めて一冊の本にしましたならば子供の養育上に宜い參考にならうと思ひます。

矢張り同じやうな例でございますけれども、醫者の方からも教育者の方からも餘程氣をつけなければならぬと思ふことは、母親の神經質である、さう云ふ親には子供に病氣が出ることが多いが、一番著しいのは子供の「ヒステリー」、神經質と云ふものが多い、八歳以上の小學校に往く時分の子供になりますると精神の異狀を來すことが割合に多い、餘所の子供が學校に往つて遊んで居つて、何だか餘所の人の物が穢くていかぬ、それで今日は學校から歸つて來た、餘所の自分の友達の所に往つて、其處に在つた本なり玩具なりを歸る時分に皆持つて來ると云ふやうな例、其外、神經衰弱のやうな又は「ヒステリー」のやうな子供が隨分數多くあります、かう云ふ場合には親と一所に診察をしますると親が「ヒステリー」がひどい、神經衰弱がひどいと云ふやうな場合に子供も同じやうに罹つて居ると云ふ場合が多いのでありまして、さう云ふ場合には我々が寧ろ子供の方よりも親の方を前に治療を致しまして、或は精神的の保養とか或は宗教に依つて早く子供よりも親を前に治療させまして、さうして其子供の神經質を癒すと云ふやうな方針を取つて居ります、今ザット掻摘んで申しましたやうに實際子供の養育殊に色々の衞生上のことに關しては親の注意不注意に依て重大な事柄が起りまするので、本日は其簡單な緒言だけを申上げて、之れから皆さんから雜誌の上で色々の珍らしいお話を承たまはりたいと思つて居ります。

母親の不注意によりて起れる子供の病氣に關する實驗報告を歡迎す

母親が不注意であるためにその子供に種々の病氣を起したといふ例は、隨分多いことであらうと信じます。是等の實例を多數に集めることは、育兒上に、實際に利益があると信じますから、病氣の輕重と種類の何たるを問はず、その事實を報告せられんことを乞ふ。

右に關する投書は、東京市麹町區三番町四十四番地唐澤光德氏宛御送致を乞ふ。

母乳を禁ずべき場合

小兒を育てるには、その生母の乳が一番宜いと云ふことは、これは自然の理であります、併し病氣等の場合には、母の爲にも小兒の爲にも乳を與へて惡いことがある、この時には止むを得ず、他人の乳をもらふか、或は牛乳の如き動物の乳を以て間に合はせなければなりませぬ。それは何う云ふ場合かと申しますと。

第一には乳が出ない、或は少い爲に、小兒を育てるに不足なとき。これは禁ずべき場合ではない、授乳せんとするも能はざる場合でありますが、二三日間出ない、或は少ないからと云ふて、直ちに斷念しては宜しくない、暫らく吸はせて居る中に出るやうになるのが普通であります。少ないからと云ふて直ちに牛乳に代へれば、それで乳は全く乾て仕舞ひます少なくとも、縱令出なくとも暫く忍耐して乳を吸はせて見ることが必要であります。又初產の時は、何うしても乳が出なかつたからと云ふて、二回目の產の時も、出ないものとは限りません、案外上等の御乳が澤山出ることがあります。

第二は乳嘴が短かい、或は引込むでゐて、小兒が吸附けない場合、これも禁ずべき場合ではない矢張授乳し能はざる場合であります、これは既に妊娠の初から注意して、指で以て引出すやうに努めなければならぬのであります。

第三は乳嘴に創傷が出來て吸はせることの出來ぬ場

合、これも妊娠の初から注意して、元來皮膚の弱い人は特に「アルコール」の如きものを以て毎日乳房を拭いて皮膚を強くするやうに心掛なければならぬことであります。

以上は授乳したくとも出來ぬ場合でありますが、次には授乳することは出來ても、小兒の爲に或は母の爲に授乳してはならぬ場合があります、それは第一には母親が傳染病、例へば窒扶斯、マラリヤ、インフルエンザ、丹毒と云ふやうな急性の熱病に罹つた時は、乳を與へてはなりません。小兒に傳染する危險があり、母の爲にも宜しくないのであります。

第二は脚氣の場合、母が脚氣に罹つてゐる時に乳を與へますと、その兒は消化器を惡くし一種の病氣を惹起し、その爲に死亡することがあります。併しこの場合に母乳を是非廢さなければならぬか何うかと云ふことに就ては、小兒科醫の間に大分議論があることでありますから、母子共に醫師の診察を受けた上で、適當の處置をしなければなりません。

第三には母が結核の場合、肺結核の時には、直接呼吸に由て小兒に傳染しますから、これは乳そのものよりも先づ授乳する方法が危險である、尙ほ肺の結核でない場合でも危險がある、併しそれは母親の爲に果して惡いか何うかと云ふことは矢張議論のある所でありますから、然るべき醫師の相談を受けて授乳を止めるやうにした方が宜いと思ひます。

第四には腎臟病、それから重い貧血症の時には。授乳をしては母の爲に惡い、尙ほ小兒の爲にも乳の成分に變化があるから宜しくない、授乳を止める方が可いのであります。

第五には月經の時、授乳して居りますと、久しい間月經は無いものでありますが、何うかすると二三個月目位から月經を見ることがあります、この時には小兒は下痢を起しますが、併しこれは左程心配する程のものではありません、若しこれまで牛乳と母の乳と兩方用ひてゐた小兒なれば、母の乳を少なく飮

ませるか或は牛乳にしても宜しいでせうが、そうすると又母の乳の出が惡くなることがありすから、少し下痢を起しても、そのまゝ授乳して差支はなからうと思ひます、四五日で月經が上れば、乳も本の通りになり、從つて小兒の下痢も直ぐ止むものであります。

第六は母が甚しい神經質の時、或は「ヒーステリー」癲癇、又は精神病に罹つて居る場合には、種々の點から授乳を廢す方が可いと云ふことになつて居ります。尙ほ何う云ふ物を食べた時には乳を與へて惡いと云ふことを申しますが、今日の小兒科では、この方は餘り八ケましく申しません、只酒などを澤山飮だ場合には宜しくないと云ふことであります。

要するに乳と云ふものは、乳房で以て血液から製造されるのでありますから、その原料たる血液に變化があり、或は製造所たる乳腺などに變化があれば、從つて、乳の性質にも多少の變化を來しますから、小兒の爲に惡いことがあるのでありまして、牛を食へば角が生へると云ふやうな譯のものでは決してありません、兎に角母の體に病氣が起り、その乳を飮むで居る小兒に變があつたならば、無論直ちに醫師の診察を受けて、授乳を止めなければならぬものならば、斷然止めるやうにしなければなりません。

マクリ

昔は生れたての小兒に、よくマクリと云ふものを飮ませました、これは確かに昔の御醫者が敎へたのに相違ありませんが、今日では、もう用うる人は無からうと思ひの外、まだ隨分用ひなければならぬものと考へてゐる人があるやうであります。

一體あれは何う云ふ考で用ひ始めたものか能く分かりませんが、何れ毒下しとか何とか云ふ意味のものでありませう、大黃、紅花、甘草その外二三種のものが混ざつて居りますが、大部分は飮むでも別に差支はないが、飮まぬ方が更に可いと云ふたやうな物

ばかりであります、但し大黄は下劑であります、少量を用ひれば大人には健胃劑ともなりませうが、小兒、特に健康な小兒にとつては全く無用なものである、のみならず害がある、大抵生れた日から二三日飲ませるのが通例であるが、田舍あたりでは初めて生れた子には百日間、二番目の子には五十日間、このマクリを飲ませるなどと云ふ處もあるそうであります、斯樣なことをしても別に身體を毀はさぬ小兒は餘程壯健な小兒と云ふべきもので、弱い兒ならば必ずこれが爲に病氣を起すか死ぬであらうと思はれる、要するにマクリと云ふやうなものは今日の醫學から見れば全く無用のもの、否有害なものであると云ふことは明かなことであります、古い產婆などに頑固なことを云ふものがあつても、それは用ひぬやうに願い度いのであります。

家庭衛生

衛生十訓

伊太利の「イル、ラボロー」と云ふ雜誌に、プロフエッソル、スクラボーの衛生十訓が載せてありましたが、頗る要を得たものと思ひますから翻譯して左に御紹介致します。

一、健康は富よりも價高きものなり、衛生は健康を維持することを敎ふ。然れば、この有益なる學術の敎に從ひ、此世にありて滿足に感ぜんが爲には何よりも先づ健康ならざるべからざることを熟考せよ。

二、汝の健康は、他人の幸福を意味し、他人の健康は又汝自身の幸福の基たることを思へ。

三、日光を愛せよ、これ汝の一切の依る所、身の健

康も亦實にこれに賴れり。

四、多くの病は、眼にて認め得ざる小さき病原菌に由て起る。然れども、汝は、その病原菌の在る物を能く消毒して、これを撲滅することを得べし。

五、總て不潔を嫌ふべし、汚穢の中に生活する所の人間は、動物にも過ぎたるものと謂ふべければなり。

六、汚物ある所には蠅飛來る、蠅の止る所には、最も危險なる病原菌を齎らさる、故に蠅は人類の健康の敵と看做すべきものなり。

七、火は病原菌を滅殺す。故に煮たる溫き食物は、生のものに勝れり、實に煮たるものは、健康に有益なるなり。

八、「アルコール」は有害なり。渇は淸き水にて癒すべし。誰にても他人の爲に飮水を不潔にするものは、大なる惡事をなすものなり。

九、食事の前には、水と石鹼を以て能く手を潔むべし、これ危險なる病原菌を口中に致さざらむが爲なり。

十、決して地上に唾はくこと勿れ、汝の喀痰は他人の健康を傷ふことあればなり。



○濟生會の診療班

濟生會にては一月十日より東京市内診療班巡回診療を實施し、同時に各區細民部落に診療班の實施を知らしむべく左の公告をなせり。

恩賜財團濟生會は　聖上皇后兩陛下の渥き思召に基き朝野縉紳富豪の翼贊を得て世の不幸なる患者を救療する爲め是迄市内各區に診療所を設いて其所に來る患者を救療して居ましたが今回尙「診療班」と云ふを設け每日各所を巡回して救療することとしましたから身體がわるくても開業醫又病院の治療を受る實力のない方々は遠慮なく此「診療班」にし受診なさい但し濟生會の救療を受ける方々は前に述べた　兩陛下の思召より本會の設立せることを呉々も服膺し、醫師の指揮を嚴守して一日も早く健康の身と復り帝

室其他への報效を忘却してはなりませぬ

大正三年一月　　恩賜財團　濟　生　會

尙ほ市內診療班員及び勤務時間は左の如し。

▲市內診療班員

第一診療班(巡回區域深川區本所區京橋區日本橋區內)

醫　員　坂　本　ヤ　ソ

產婆兼看護婦　坂　本　ミ　ツ

第二診療班(巡回區域淺草區下谷區本鄕區神田區內)

醫　員　吉　村　深

產婆兼看護婦　星　野　千　代

第三診療班(巡回區域小石川區牛込區四ッ谷赤坂區麻布區芝區麴町區內)

醫　員　藤　井　り　や　う

看　護　婦　二　宮　初　榮

▲診療班勤務時間

巡回勤務時間

每日午前九時より午後四時迄巡回先に於て診療に從事すること

事務整理日

每日曜日

事務連絡

醫員及產婆、看護婦は每朝適宜會合の場所を定め且つ可成每日巡回先附近の診療所に立寄り診療上の連絡を計ること

其　他

診療班は到所に本會公告を撒布し初診患者には尙本會の趣旨を口說すべきこと

診療班診療先に於ては必ず所定の標布を適當の位置に表出し置くこと診療班は當日最終の診療先に於て日報を作成し發郵すべきこと診療班に於て患者に處方箋を交付する場合には該劵を委託藥劑師に持參するときは藥劑師に於て投藥をなし其藥價は本會に於て支拂ふべき旨を爲念注意し置くこと

○女學生の體格

文部省調査に係る大正二年度全國高等女學校の體格檢查統計を見るに、各府縣に於てその規模の比較的大なるもの五十一校、生徒二萬一千七百四十五人の總平均及び比較數は大約左の如し。

○○年齡　各學校の平均十五年一一にして、沖繩の十六年〇六を最多とし、神奈川縣の十四年四五を最少とし、其差は一年〇六を示せり

○○身長　總平均四尺七寸八分にして、福岡縣の四尺八寸八分を最長とし、大分縣の四尺六寸九分を最短として、其差は一寸九分なり

○○體重　各學校生徒の平均十貫七百匁にして、山口、靜岡の二縣の十一貫四百匁を最重とし、福岡、岐阜、京城の十貫二百匁を最輕とし、此差一貫二百匁なり。今體重の分類別を示せば、十一貫四百匁以上(山口、靜岡)十一貫二百匁以上(大分、北海道、廣

島)。十一貫以上(秋田、新潟、鹿兒島、茨城、石川)。十貫八百匁以上(佐賀、岩手、宮崎、德島、愛媛、高知、兵庫、岡山、長崎)。十貫六百匁以上(宮城、福岡、山形、千葉、青森、熊本、島根、富山、三重、福岡、京都)。十貫四百匁以上(群馬、鳥取、和歌山、臺灣、滋賀、埼玉、長野、大阪)。十貫四百匁未滿(沖繩、神奈川、岐阜、朝鮮)なりと云ふ。

○血族結婚の調査

兵庫縣三原郡沼島村は、南淡大洋中に孤立せる一小島にして交通の機關未だ全からず、隨て村民孰れも社交に疎く殆んど自村以外に誼を交ふるもの少なく爲めに一種孤獨の風をなし人情亦他と異る所多し、而して同村にては交通不便を楯とし血族血婚の弊風頻りに行はれ、村内殆んど姻戚ならざるはなく、近時漸くこれが改善を說くものありて稍〻矯正の曙光を認められつゝあるも尙ほ且つ舊慣を脫する能はず、隨て同村にては比較的不具者の多きは之れを證するに足るべく、最近の調査によれば、現在人口は男二千百十九名、女二千六名にして、其内盲者三十一名(男十五名女十六名)啞者四名(男三名女一名)聾者二名(男女各一名)白痴三名(男二名)あり、各町村に比し不具者の率が如何に多きかを察するに足るべく、又血族結婚の影響如何を按ずるに適確の資料たるべし。

廣告

○婦人衛生會二月例會

同例會は二月七日午後一時より神田區女子職業學校内に開かれたるが、當日の講師藤浪ドクトル差支ありて出席せられず、ドクトル富士川游氏の講演ありたり、「食事に就て」と題し、衞生と敎育との密接なる關係を說き、衞生と云ふも個人の衞生は主として躾に由ると云ふ意味にて食事に關し種々有益なる注意を與へられたり。

當日出席の役員の姓名を記すれば左の如くなりき。

濱尾作子　鳩山春子　吉武鄰枝子
長谷川仲子　高木鉐子　三宅藤子
岡田德子　丹羽貞子　宮本樂子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田德子
同 山本多穂子
同 松平芳子
評議員 石川貞子
同 濱田捨子
同 服部繁子
同 西外子
同 緒方悦子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部限子
同 山口貞子
同 古市幸子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮下咲子

同 羽田三緒子
同 高木鍒子
同 三浦敬子
同 岩下ゆか子
同 長谷川仲子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 吉武輝枝子
同 高橋孝子
同 鳩原誠子
同 中濱芳子
同 子爵夫人 松井正子
同 伯爵夫人 阿部篤子
同 菊池冬子
同 宮本樂子
同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一册 定價金貳拾錢 郵稅壹錢
三册（三ヶ月分） 前金郵稅共 金四拾五錢
十二册（一ヶ年分） 前金郵稅共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行 一行二十三字
壹頁 金 五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正三年二月二十二日印刷
大正三年二月二十五日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區根津西須賀町九番地 莊司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 今井甚太郎
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鎗屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店